

環境先進県おおいたを目指して

大分県は「環境先進県」を目指します

近年、企業や人々の意識が高まり、環境への配慮が社会的価値を生む時代となる中、これからの環境政策においては、本県の恵み豊かで美しく快適な環境を「守る」のみならず、「活かして選ばれる」視点を持つことが大切です。

これまでの環境政策を継承しつつ、企業の環境対策や環境保全活動などに新たな社会的価値を付け、経済の発展を促す取組「グリーンアップおおいた」を新たに展開することで、「環境先進県おおいた」の実現を県民のみなさんとともに目指していきます。

環境を「守る」取組

- ✓再エネ・省エネの導入など温室効果ガスの排出削減、森林などの吸収源対策
- ✓プラスチックごみの削減(プラごみゼロ宣言)
- ✓生物多様性の保全(自然共生地域拡大)等

ビジネスなどに「活かす」取組

- ✓グリーン・コンビナートおおいた推進構想
- ✓ものづくり産業の循環経済※1への転換
- ✓自然を活用したエコツーリズムの推進等

国内外から選ばれる

観光誘客

自然志向の観光客など

移住・定住・交流

サステナブル意識の高い都市住民・学生・企業など

企業進出・官民投資

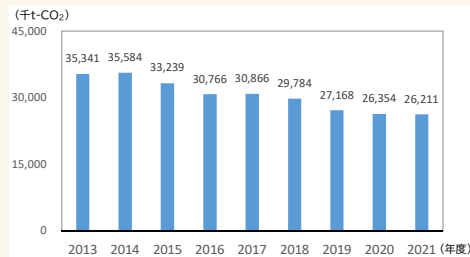
社会的責任を果たしたい企業
GXに取り組む企業など

環境を「守る」

温室効果ガスの排出削減

大分県における令和3年度(2021年度)の温室効果ガス総排出量(吸収量考慮)は、平成25年度(2013年度)と比較して26%減少しています。

2050年の排出量実質ゼロに向け、太陽光発電や蓄電池等の再生可能エネルギーの導入、省エネルギービル・住宅、電動車の普及促進など、家庭・業務・運輸・産業各部門で排出削減を進めます。



大分県の温室効果ガス排出量の推移(吸収量考慮)

プラごみゼロ宣言

おおいたうつくし作戦県民会議と大分県は、令和5年8月に、「おおいたプラごみゼロ宣言」を行いました。

プラスチック削減に取り組む事業者への支援や住民参加型のペットボトル回収による啓発運動など、新たな取組を展開しています。



令和5年8月 プラごみゼロ宣言の様子

環境を「活かして選ばれる」

グリーン・コンビナートおおいた推進構想

本県では、県経済を牽引する大分コンビナートのカーボンニュートラルと持続的発展の両立に向け、2050年(令和32年)の目指す姿を産学官共有の「グリーン・コンビナートおおいた推進構想」として令和6年1月に取りまとめました。

次世代エネルギーである水素などの供給・利活用、CO₂を利活用したカーボンリサイクルなど、大分コンビナートを中心に県内企業のGXの取組を推進していきます。

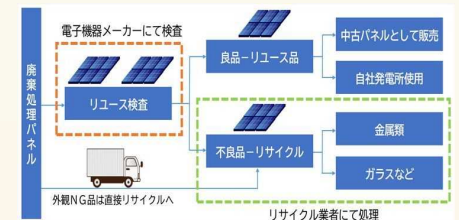
2050年に向けた大分コンビナートの目指す姿



企業連携による太陽光パネルのリユース&リサイクル

ものづくり産業の循環経済への転換を目指して、県内企業2社が共同で、太陽光パネルを再利用する事業に取り組んでいます。

由布市の電子機器メーカーが太陽光パネルを検査し、再利用可能なものはリユースへ。不可能なものは、宇佐市のリサイクル業者が素材ごとに分解してリサイクルを行います。使用済み太陽光パネルを循環利用する時代を先取りした取組です。



全国初となる自社開発装置による太陽光パネルのリユース&リサイクル

自然の恵みを活かすエコツーリズム

「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」に位置する藤河内溪谷(佐伯市)では、美しい溪谷の中を下る「キャニオニング」が人気を博しており、年間約1,500人が訪れる観光スポットとなっています。

また近年、豊後大野市では、美しい川と澄んだ空気の中で楽しむサウナが、大自然の中でとのいたい多くの人々を惹きつけています。



キャニオニング

大自然の中で楽しめるサウナ